

当社は、多様化する環境問題に、バリューチェーン全体で持続可能な社会の形成に貢献していくとともに、「エコチャレンジ2030」および「レンゴーグループ環境アクション2050」を策定し、「2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとすることに挑戦する」との長期目標を策定しています。

今回の計画では、バイオマス燃料ボイラの新設、ガスエンジン発電設備の導入、および製造設備の改造に伴う投資での生産性改善を実施し、当社の炭素生産性を14.6%向上してまいります。

<事業適応計画の概要>

1. 事業適応計画の実施期間

2022年6月～2024年3月

2. 生産性向上目標・新需要開拓目標

炭素生産性を14.6%以上向上させる。

3. 前向きな取組みの内容

- ・ 計画初年度、利根川製紙工場ではバイオマス燃料主体の流動層ボイラを新設。また、ライナ専抄4号抄紙機の設備改造による生産性改善によりCO₂排出を削減する。尼崎工場では老朽化した焼却炉の更新により、コージエネレーション設備での都市ガス使用量を削減する。
- ・ 計画2年度目は、利根川製紙工場にガスエンジン発電設備の導入および、性能低下した既設復水タービン発電機のローター更新、八潮工場での7号抄紙機の設備改造により原紙製造に係るCO₂排出原単位を改善する。

4. 支援措置

税制措置（カーボンニュートラルに向けた投資促進税制）

<取組みの内容のイメージ>

「レンゴーグループ環境アクション2050」を2021年4月に策定
～2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとすることに挑戦する～

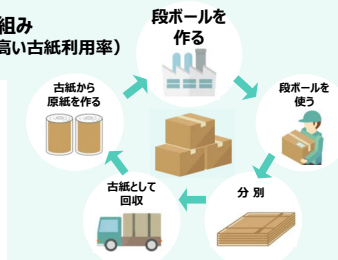
SDGsとの関わり



つくる



再生利用の取組み (98%を超える高い古紙利用率)



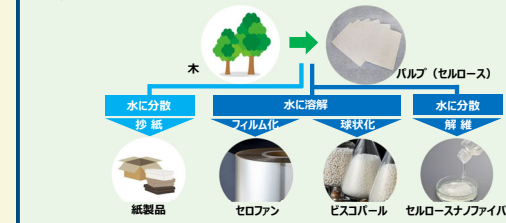
つかう

パッケージで社会課題と向き合う



かえす

自然界で分解可能な素材の開発



2050年に向けた環境への取組み

